

## 大阪府 貝塚市

貝塚市は、大阪市の中心部から南に約30km、鉄道で約30分の距離にあり、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置します。市域面積は43.93km<sup>2</sup>であり、東西に約4.8km、南北に約16.0kmの細長い地形を有し、北は大阪湾、南は和泉葛城山を経て和歌山県紀の川市と接しています。

山から海にかけての多彩な地形には、国の天然記念物に指定されているブナ林を育む和泉葛城山や、紀貫之の土佐日記に記された白砂青松の砂浜があり、そこから眺める夕日は「日本の夕日百選」に認定されています。市域には、厄除けで賑わう名刹の水間寺や国宝の観音堂を有する孝恩寺、願泉寺を中心に形成された寺内町の町並みがあり、2025（令和7）年に開業100周年を迎える水間鉄道が縦走しています。また、太鼓台やだんじり祭りなどの伝統行事を受け継ぐとともに、つげ櫛などの伝統産業、近代以降に発展した繊維・ワイヤロープといった地場産業など、独自の文化と産業を持っています。

2023（令和5）年、本市は市制施行80周年を迎えました。4月の新庁舎グランドオープン式典を皮切りに、5月には記念式典を開催しました。また、2023（令和5）年度の1年間を通じて、市内一円で様々な記念事業を市民の皆様とともに実施いたしますので、みなさんぜひ貝塚市にお越しください。



二色の浜の夕日



水間鉄道



水間観音

### 貝塚市と和歌山大学との社会教育分野の連携の歴史と関係構築

和歌山大学との連携では、社会教育分野において、とても長い歴史があります。

古くは、1970年代初頭に都市型公民館を目指した公民館の共同研究、80年代には、全国的な自主子育てサークル活動の先駆けとなる「貝塚子育てネットワークの会」の発足と継続支援、さらに生涯学習推進計画の策定、地域コーディネーターの人材育成に、当時の和歌山大学生涯学習教育研究センター（以下、センター）の研究者の指導・助言を得てきました。また、同時期から和歌山



子育てネットワーク研修会

大学教育学部で養成が始まった社会教育主事任用資格取得のための社会教育実習において、公民館等の社会教育施設での実習受け入れを行ってきました。これらは、元貝塚市職員であり、2008（平成20）年にセンターの専任教員として採用された村田和子先生（和歌山大学紀伊半島価値共創基幹教授）にも引き継がれ今日に至ります。社会教育分野の関係構築、連携が今日の包括協定の基盤となっています。

## 和歌山大学との連携（産業戦略課）

本市では、2016（平成28）年に策定した第5次貝塚市総合計画の推進方策を「市民とともに 紡ぐ まちづくり」としており、企業・大学・市民団体等との連携によるまちづくりを推進してきました。また、これまで以上に企業や大学等の提案やアイデア、ノウハウ等の活用による地域課題や社会課題の解決、市民サービスの向上、地域活性化を図るためのワンストップ窓口として、2022（令和4）年に「貝塚市公民連携デスク」を設置したところです。

これまで、本市と和歌山大学の間では、「貝塚版こども博士育成事業」のプログラム作成や、公民館等における様々な講座の実施、観光まちづくりに係る各種事業の選定委員への就任など、社会教育・生涯学習分野をはじめとした様々な分野での連携協力が行われてきました。

このような背景のもと、2022（令和4）年7月15日には両者が今後も継続的に連携し、地域社会の発展と学術の振興に貢献することを目的として包括連携協定を締結しました。本協定により、相互の資源を活用し、地域社会の発展、学術の振興、人材育成等をより一層推進します。まずは、小中学生を対象にした将来の貝塚市を担う人材育成を主とした教育分野、環境、産業分野での連携協力・共創事業を進めてまいります。



協定式記念撮影

## 子ども博士育成事業（社会教育課）

貝塚市では、2022（令和4）年度から、「子ども博士育成事業」を開始しました。天文学や生態学、貝塚の歴史分野に関心のある小中学生に対し、善兵衛ランドや自然遊学館などで、それぞれの分野の大学教授などによる講座や体験を通じた専門教育を実施しました。2023（令和5）年度は、3分野を充実させるとともに、大学の地域連携プログラムを活用し、新たにドローンプログラミング講座も開講しています。

このプログラムによって、将来その分野で活躍できる研究者や専門家の育成をめざします。



子ども博士育成事業（自然遊学館）



子ども博士育成事業（善兵衛ランド）